

奈良県立医科大学 学報



固い握手を交わすDr. Panditと吉岡学長

オックスフォード大学と 学術協定セレモニー & 記念講演 を開催しました

本学とオックスフォード大学との間で、昨年4月30日に締結した学術交流協定を記念し、両大学による学術協定セレモニーと講演会を7月23日に厳樞会館において開催しました。

セレモニーでは、オックスフォード大学代表のDr. Panditと吉岡学長が固く握手を交わし、両大学間の学術交流を今後さらに発展させていくことが宣言されました。講演会では、Dr. Panditとオックスフォード大学大学院出身でリーズ大学名誉教授のDr. Ward、本学第二内科学の木村教授の講演があり、大変実りの多いものとなりました。

October
2009

vol. 30

CONTENTS

オックスフォード大学と学術協定セレモニーを開催	1
オープンキャンパス開催報告 / バイエル社から表敬訪問 / 案内プレートの設置	2
奈良医大入学を目指す諸君へ	3
医学科定員増について / 平成22年度入試日程	4
学園祭開催案内 / 相撲部・長谷川くんが準優勝 / 早稲田大学オープンキャンパス	5
ホオジロ通信	6~7
平成20年度決算について	8~9
研究紹介(眼科学) / 解剖慰霊祭 / 公開講座開催報告	10~11
県防災総合訓練へ参加しました / 病棟紹介	12~13
先端研だより / 共同研究で会長賞 / 特許・文献統合DB / 住居医学研究会開催案内	14
職員組合バレーボール大会優勝報告 / レポート	15
国際交流センターを設置 / 下ツ道 / 広告	16

大講堂も満席でした（オープンキャンパスを開催）

（学務課）

8月8日（土）、オープンキャンパスを開催しました。

当日は炎天下にもかかわらず、医学科と看護学科の志望者等、合わせて約600名の参加があり、受付開始30分前には、メイン会場である大講堂前に長蛇の列ができました。先着100名とした施設見学は両学科とも受付開始後すぐに定員に達し、本学の人気の高さがあらためて裏付けられました。

また、今年は新しい試みとして、本学が連携協定を結んでいる国内外の各大学の紹介（パネル展示、資料配布）を行うコーナーと、在学生在が講義等で使用している教科書を展示するコーナーを設けましたが、来場者が足を止めて興味深そうに見ていました。

今回も、教職員、学生ボランティアなど多くの皆さんの協力で、成功裡に終えることができました。ここに厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご協力をお願いいたします。

同志社女子大学、早稲田大学、奈良先端科学技術大学院大学、チェンマイ大学、福建医科大学、オックスフォード大学



今年も大好評「在学生による相談コーナー」

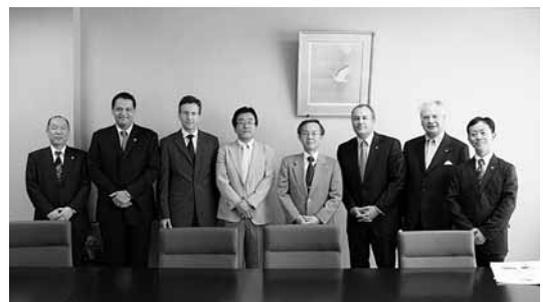


大講堂も満席「吉岡学長による講演会」

バイエル シェーリング ファーマ社の表敬訪問を受けました

（Bayer Schering Pharma）

9月16日、寄附講座「血栓制御医学講座」の寄附者であるバイエルシェーリングファーマ社からドイツ本社の最高経営責任者Andreas Fibig氏（写真右から3人目）はじめ幹部役員の方々や日本法人であるバイエル薬品（株）の社長Jean Luc Lowinski氏（同左から2人目）が吉岡学長、杉本血栓制御医学講座教授を表敬訪問され、最近の医療や薬品を取り巻く環境等について和やかに意見を交わされました。



学長室にて

もうお気づきですか？

～ 寄附講座等の案内プレート～

寄附講座を開設いただいた企業や多大な寄附をされた個人に対して感謝の意を表すとともに、来学された方々への案内のためのプレートを大学本館前と基礎医学校舎1階フロアに設置しました。

大学本館前の案内プレート



奈良医大入学を目指す諸君へ

学長 吉岡 章

この大講堂一杯の受験生とご家族の皆様、ようこそ奈良医大のオープンキャンパスにお越し下さいました。心から歓迎いたします。

本学は昭和20年（1945年）の開学以来、足かけ65年間単科の公立医科大学として成長して来ましたが、平成16年には4年制の看護学科を設置し、1学部2学科の医科大学として、更に、大きく発展を続けています。平成19年には、「県立=官」としての歴史と実績、そして県民の支援を継承しつつ、「法人=民」としての経営理念と手法をハイブリッド化させて、新しい大学形態「公立大学法人奈良県立医科大学」に衣替えをいたしました。

医学科の入学定員は長い間95名でありましたが、平成20年度から毎年5名ずつ増員し、平成22年度は120名となる予定です。看護学科は従来どおり80名で、別に15名の3年次編入学を受け入れています。このように両学科を合わせて学生数は約1,000名（他に大学院博士課程40名×4年と修士課程5名×2年）と、比較的にごんまりとした大学ですが、教員（教授、准教授、講師、助教）は合計349名（学生1名あたりの教員数約0.35名）と、我が国トップクラスの密度の濃い教育指導体制を敷いています。医学科に限りますと、附属病院（980床）には研修医（卒後1，2年目）と医員（同3年目以降）と大学院生合わせて約320名が勤務・研究しており、この若い人達を加えますと、医学科第4，5，6年生のいわゆる臨床系課程学生1名あたりの臨床指導者はなんと1.8名以上となります。このことから判るように、奈良医大は教員・職員と学生、学生と学生とが家族的な親しい雰囲気の中で学習できる素晴らしい環境にあります。

諸君は見事合格しますと、医学科で6年間、看護学科で4年間、臨床実習を含む厳しい教育課程が待っています。卒業後に国家試験に合格しますと、晴れて医師や看護師（保健師・助産師）として、医学・医療の現場で働くことになります。学生時代には、諸君は、まず、高度な知識と基本的な技能を習得しなければなりません。また、重い病気や辛い悩みを持つ患者さんとそのご家族に対しては、相手の思いを知り、それを受け入れ、そして、安心を与えることのできる「心」を醸成することが求められます。さらに、プロとしてのハードな勤務に耐えうる精神力と体力を自ら養うことも求められます。そのためには、毎日の勉学に勤しむと共に、クラブ活動等を通じて気力と体力を鍛えてください。本学にはたくさんのクラブやサークルがあり、先輩が諸君を歓迎すると共に親しくかつ厳しく指導してくれるはずで

折から、来年は平城遷都1300年にあたります。聖武天皇と光明皇后は「施薬院」と「悲田院」という医療・介護・福祉施設を我が国で初めて公の手で設置されました。正倉院に保管されている高貴薬がたくさん処方され、貧しい人たちに食事と住処を施されたのです。これは本学の設立理念にも繋がる画期的な医療・福祉施策の原型であります。ここ奈良医大の地は、その平城京よりもさらに歴史のある藤原京・明日香の里に隣接しています。どうか諸君、1500年以上前の首都であるここ橿原の地で一緒に医学・看護学そして医療を学ぼうではありませんか。皆様のご入学を心よりお待ちしております。

医学部医学科において15名の入学定員増を申請しています

一昨年の「緊急医師確保対策」、昨年度の「経済財政改革基本方針2008による医師不足改善」により、医学部医学科の入学定員はそれぞれ5名ずつ増員して105名となりましたが、今年度も「地域の医師確保の15名の入学定員増加」を文部科学省に申請しています。このことが承認されれば、医学科定員は平成22年度入試から120名となります。

入学年度	17	18	19	20	21	22
募集定員	95	95	95	100	105	120

22年度は予定

平成22年度 入試日程

医学部

学科別	入試区分	募集定員	出願期間	試験日	合格者発表
看護学科	推薦・社会人	(名) 30	平成21年11月2日(月) ・11月4日(水)	11月28日(土)	12月8日(火)
医学科	推薦	緊急医師確保枠 20 地域枠 10	平成21年12月15日(火) ～12月18日(金)	2月7日(日)	2月10日(水)
医学科	前期	65	平成21年1月25日(月) ～2月3日(水)	2月25日(木) 2月26日(金)	3月9日(火)
看護学科	前期	40		3月12日(金)	3月23日(火)
医学科	後期	一般枠 15 地域枠 10			
看護学科	後期	地域枠 10		3月13日(土)	

詳しくはホームページで確認してください。(<http://www.naramed-u.ac.jp/jyuken/>)

なお、看護学科の推薦・社会人入試募集要項は、学務課厚生・入試係(大学本館1階)で配布中です。医学科推薦入試募集要項は10月下旬頃、その他の募集要項は11月下旬に配布予定です。

看護学科第3年次編入学試験(15名)は平成21年8月に実施済です。

大学院医学研究科(博士課程)

専攻	募集定員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻	7(名)	第一次募集 平成21年11月9日(月) ～11月13日(金)	第一次募集 11月25日(水)	第一次募集 12月8日(火)
生体情報・病態制御医学専攻	13	第二次募集 平成22年2月15日(月) ～2月19日(金)	第二次募集 3月3日(水)	第二次募集 3月23日(火)

社会人の入学も可能です。

社会人とは医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

大学院医学研究科(修士課程)

専攻	募集定員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学専攻	5(名)	第一次募集 平成21年9月7日(月) ～9月11日(金) 第二次募集 平成22年2月1日(月) ～2月5日(金)	第一次募集 9月24日(木) 第二次募集 2月17日(水)	第一次募集 10月13日(火) 第二次募集 3月9日(火)

博士課程と同様、社会人の入学も可能です。

但し平成22年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。

学生募集要項は、学務課教務係(大学本館1階)で配付しています。また、ホームページでも確認できます。(<http://www.naramed-u.ac.jp/jyuken/>)

白樺生祭迫る!! 10月30日(金)から11月1日(日)まで3日間

～今年のテーマは「プレせんと祭」～

(平成21年度白樺生祭実行委員一同)

今年もいよいよ年に1度の楽しい学祭がやって来ます。大学を挙げて行う壮大なフェスティバルです。また、奈良県は来年「平城遷都1300年」を迎えます。それに相応しい内容になればと思っています。

さてそれでは、主なイベントなどをご紹介します。

相撲大会 10月30日(金) 於 相撲場
球技大会 10月30日(金) 於 体育館
シンポジウム 10月31日(土) 於 大講堂
 演 題:「未知へのチャレンジ」
 講 師:国立循環器病センター 研究所所長 寒川賢治先生
 入場料:無料
 注目点:今後、様々なことに挑戦していく私たちに、貴重なヒントをお示しいただけるすばらしい機会です。
金魚すくい大会 11月1日(日) 於 野外メインステージ前
 エントリー:事前に受け付けています。(当日も朝9時から会場本部で受け付けますが、定員となり次第受付を終了する場合があります。)
 注目点:金魚で有名な奈良県ということを活かして、全国でも珍しい金魚すくいがある学祭ということをアピールしていきたい

と思います。
基礎医学解剖学に関する展示
看護学科学学生による「AED使用方法の講習会」
その他の展示 10月31日(土)～11月1日(日)
 於 一般教育校舎、看護学校舎
ステージ企画 10月31日(土)～11月1日(日)
 於 野外メインステージ
 注目点:各クラブによるライブや面白イベントが目白押しです。
模擬店 10月31日(土)～11月1日(日)
 於 一般教育校舎南側
メインイベント 『よしもお笑いステージ』
 麒麟、ダイアン、ジャンクシヨ 他2組
 11月1日(日)11時30分～ 於 体育館
 チケットはホームページから購入可能です。

毎年のことですが、白樺生祭の運営にあたっては、先生方にご多大のご援助をいただいております。この場をお借りしてお礼申し上げますとともに、これからもよりよい白樺生祭を目指してまいりますので、何卒ご協力よろしくお願い致します。

みなさんのお越しをお待ちしています。

【白樺生祭ホームページ:<http://www.geocities.jp/naramed09fes/index.html>】

長谷川くん見事『準優勝』!!

～西日本体重別学生相撲選手権65kg未満級～



左から筆者の横内くん、長谷川くん、吉岡学長

医学科5回生 横内 剛

7月26日、大阪府堺市の大浜競技場にて西日本体重別学生相撲選手権が開催され、今年も相撲部から4人が出場しました。近畿大学や同志社大学などの強豪が多数出場するレベルの高い大会であるため、ここ数年の間、好成績を残すことができませんでした。

しかし、本年度は新主将の長谷川 英雄くん(医学科3回生)が65kg未満級で、見事準優勝という快挙を成し遂げました。

これもひとえに相撲部部長の精神科岸本教授、泌尿器科平尾教授などの相撲部OBの先生方や、学長の吉岡先生始め、皆様方の、日頃からのご支援ご声援の賜物と、たいへん感謝しております。これからは部員一同、学業、稽古ともいっそうに励み、精進していきたいと思っております。皆様応援の程よろしくお願い致します。

東京でも本学のPR ～早稲田大学オープンキャンパスにて～

(学務課)

8月2日(日)、東京高田馬場で開催された「早稲田大学オープンキャンパス」へ喜多医学部長をはじめ総勢11名で参加しました。

本学と早稲田大学とは、平成20年12月に「連携協力に関する協定」を締結しており、教育研究活動の一層の充実などを目的として様々な活動を行っています。

今回の企画はその一環として実施したもので、首都圏の人々にも本学のことを知ってもらおうというものです。

当日は、次の3つのテーマで講演を行い、「医学とは何か」、「最先端医療とはどのようなものか」について、来場者に熱く訴えました。

放射線医学 吉川教授による「画像による最先端医療」

耳鼻咽喉・頭頸部外科学 細井教授による「聞こえない人が聞こえる医学のマジック」

消化器・総合外科学 植田医員による「多能性幹細胞から臓器を分化誘導する」

また、診察用シミュレーター人形を使った次の3つの「体験」では、希望する高校生らが列をつくりました。

総合医療学 藤本准教授による「心音測定体験」、「心臓マッサージによる蘇生体験」、「AED(自動体外式除細動器)による心臓救命体験」

今後このような場を積極的に活用し、本学のよさを広く紹介していきたいと考えています。



藤本准教授による「体験コーナー」

教養を考える

独創性と専門性をみがきつつ

一般教育部長 大西 武雄



「あのお方は教養がある人である」という言葉から、あなたはどのよう連想されますか。いわゆる世間一般の礼儀のことでしょうか、万葉集やクラシックミュージックを楽しんでおられる方のことなのでしょうか。では、ジャズや社交ダンスではいけないのでしょうか。あなたにとって教養とはどのようなものですか。なぜ、「大学教育に教養が大切である、ぜひとも大学教育のなかに教養をもちこもう」ということを、これまで文部科学省はすすめてきたのであろうか。誰もがあの方は教養の無い方であると言われたくないからであろうか。定年を間もなくにした小生は長い年月一般教育(教養課程と呼んでいる大学もある)の生物学を担当してきた。確かに医学を志す学生にとって生物学は基本中の基本である。特に高等学校で生物学を勉強してこなかった学生、入試に生物学の範囲を受験してこなかった学生に生物学の基礎知識の欠如は医学への勉強に大きな障害になっている。したがって、大学に入学してから高等学校の参考書を毎日手にしている学生が多い。では、その後大学では何を勉強するのであろうか、当然基礎医学への橋渡しのレベルの勉強に頑張っている学生がほとんどである。

本学のように医学部における教養とは「基礎医学への橋渡しの生物学」という認識が学生には最も受け入れられやすい。そのような認識で小生は教育に力を入れてきたつもりである。しかし、一生医学を勉強し、精進していく学生にはいわゆる教養としての生物学が将来どのような分野に進もうとも、なにかしら役に立つものであって欲しいものである。それは、生物学の分野の中でも植物学、生態学、分類学、進化学のように本学の基礎医学では学ぶ機会の少ない分野の生物学である。

昭和初期の日本が生んだ有名な生物学者であり、今でいうエコロジストの先駆けである南方熊楠。昭和天皇が彼に会いたくて、和歌山の神島に訪れたのが1929年のことである。彼は天皇に粘菌を桐箱でなく、なんとキャラメル箱に入れて献上した。1962年天皇は再び和歌山を訪れ、「雨にけふる神島を見て 紀伊の国の生みし南方熊楠を思ふ」と詠んだ。この粘菌は単細胞の時期と、多細胞の時期の生活史を持ち、動物(アメーバ期がある)・植物(子実体形成期がある)両者に分類されている。進化の過程でまさに曲がり角に粘菌が位置づけられている。実はこの粘菌こそが小生の研究対象であった。発生学のモデルになり、一般教育の授業にも役立つ教材でもある。この小さな生物体を研究していた過程でDNA損傷と修復の研究に明け暮れていた時代が小生にあった。やがて、それが宇宙で実験されることになり、熊楠の御令嬢にも会う機会を得た。「熊楠の粘菌」が宇宙に行くことが大いに注目された。その後、宇宙実験を責任者として10回も行うとは当時には思いもよらなかった。世間からは珍しいということで極めて独創性の高い研究と評価された。一方、DNA損傷と修復の研究は発がん研究、がん治療の基礎研究へと発展して、専門性の高いものへと進んでいった。経済的幸運にも恵まれ、多くの学部学生・院生・卒業生がたむろする研究の場が整ってきた。質の高い論文も数多く出た。学位も多く出た。学会活動も忙しくなってきた。これまでも、現在もいくつもの医学系学会の理事長・学会長を引き受けてきている。はじめの頃珍しい研究といわれていた独創的な研究が、だんだんと専門性の高い研究へと発展していく過程を体験したことで、小生は身をもって教養の大切さを学んだと言える。好きなことをやっていることが、職業となっている感がある。

人生の短いある時期に、「幅広い教養、深い知識と洞察力」を磨くことによって、独創性のある専門性の高い、新しい分野の開拓にそれぞれの学生が邁進されることを切に望む。しかし、ときとして教養が「博学」として、自分の人生(医者・科学者)の直接の糧や目的(研究対象)ではなく、心豊かな清涼剤や癒しになることも、その人の魅力や人間性の向上につながっていくことは大いに結構なことである。また、最近では音楽・美術・陶芸などの芸術に科学が深くかかわっていることがわかってきた。感性を大切にしている芸術家たちも科学を勉強しはじめている。必ずしも自分に近い分野のみでなく「幅広い教養、深い知識と洞察力」を身につけ、「あのお方は教養がある人である」と言われたいものである。

人生の短いある時期に、「幅広い教養、深い知識と洞察力」を磨くことによって、独創性のある専門性の高い、新しい分野の開拓にそれぞれの学生が邁進されることを切に望む。しかし、ときとして教養が「博学」として、自分の人生(医者・科学者)の直接の糧や目的(研究対象)ではなく、心豊かな清涼剤や癒しになることも、その人の魅力や人間性の向上につながっていくことは大いに結構なことである。また、最近では音楽・美術・陶芸などの芸術に科学が深くかかわっていることがわかってきた。感性を大切にしている芸術家たちも科学を勉強しはじめている。必ずしも自分に近い分野のみでなく「幅広い教養、深い知識と洞察力」を身につけ、「あのお方は教養がある人である」と言われたいものである。

わが国で求められる医師とは

臨床現場での教育の必要性

臨床教育部長 古家 仁



今年の初めに行われたある公開シンポジウムで、わが国の代表的な医学部の学生が、「いいお医者さんとは、うまい、つよい、えらい、の3つの言葉で言い表される」という発言をしたと報道されました。もしこの学生、あるいは学生達が本心からそう思っており、そしてこの大学の教育を受けた医師がわが国の指導的な立場になるとしたらこの国の医学の未来はどうなるのでしょうか。なぜこの学生がそう感じたのでしょうか。彼は世間で英雄と評されている3名の医師にインタビューをしてそのように感じたようです。マスコミの評価も悪いのですが、そのような医師と話をして「うまい、つよい、えらい」医師が医師

の評価として高いと感じる学生にも問題があると思われます。しかし根底には医学部に入るまでの人間教育のありかたとともに、医学教育の中で、医師の役割とは、どういう医師を目指すべきか、といった基本を十分理解していないのではないかと、という疑念が浮かびます。医学概論や医学生命倫理の授業では十分医師像に関する話もされているでしょう。しかし講義であるため頭では理解できていても実感できていないのではないのでしょうか。実際患者と対面し、患者の家族と対面し、その中から医師像を学び取る、そういった機会が少ないのではないのでしょうか。私個人の感想ですが、「うまい、つよい、えらい」医師は一般に独断で、自己中心的な医師が多いように思います。また、私は評価される医師とは、患者のことを考え、患者の視線で物事を考えることができる医師と考えています。すなわち自己中心的な医師ではなく、患者中心に物事を考える医師です。そしてそういった医師は、患者だけでなく同じ職場で働く同僚に対しても相手のことを考えて接し、周りのことを考えて行動します。今のわが国の臨床現場、とくに大きな病院や大学など所帯が大きくなればなるほど、周りを考えない自己中心的な医師が増えていくように感じています。

それでは学生にどのような教育をすればよいのでしょうか。やはり臨床現場でできるだけ多くの時間患者と接する教育にすべきです。長く行われてきた一方通行的な講義形式の教育は徐々に見直されてきましたが、まだまだ講義が多いように思われます。学生達はそのような講義でどれだけのものを吸収出来るのでしょうか。どのような立派な講義をしてもそこから学生に伝わることは多くはありません。最終的に自分で勉強して身につけるしかないわけです。患者中心の教育を受けた学生は、医師になって患者と接した時、患者の病気を治すためにその患者の病気を必死に考え、不明なところは調べ、何とか解決しようと努力します。そしてその方法を身につけていきます。学生の間でもそのような機会をできるだけ与えるべきであると考えます。そうすることで、自分で考え、自分で行動するという、いわゆる自立と自律を中心に据えた教育ができると考えます。私は、臨床医学は経験の学問だと思っています。多くの経験を積みれば積むほど、そしてその時その時に勉強すればするほど頭に残り身につきます。もちろん多くの知識は必要です。しかしそれは講義をしなくても必要な項目を学生に示せば学生は独学できる能力を有しています。そして学生が興味を持って勉強するためにはやはり問題基盤型学習、チーム基盤型学習などを積極的に取り入れることが必要で、また取り入れる学年を低学年とし、しかも大学だけでなく地域医療に根ざした形を臨床教育の中に取り入れていくべきであると考えます。もちろん、この型の学習形態に関しても問題点が指摘されていますが、わが国での高校までの教育を考えると医学部ではこの方向に進むべきであると考えます。医学生として早い時期から医療に接し、また地域医療を体験することにより大学だけでは学べない患者との対応、コミュニケーションの方法などを実地に学び、さらにその患者が持つ病気を深く掘り下げて自分で勉強する機会を与えることが可能になると考えます。



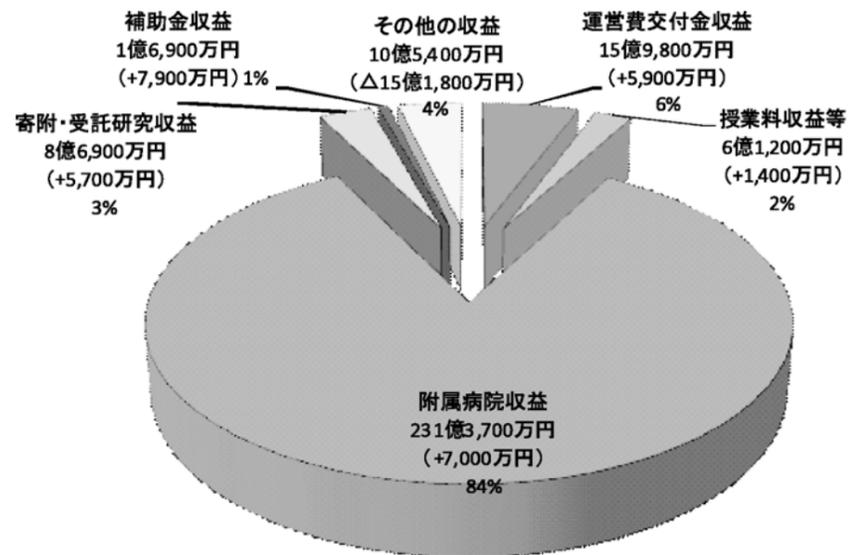
【ホオジロ通信のいわれ】

ホオジロの鳴き声は「イッピツケイジョウツカマツリソウロウ(一筆啓上仕り候)」と聞こえるといわれます。本学教職員および関係者の皆様に一筆啓上仕るという意味で、この欄をホオジロ通信と名付けました。

平成20年度 公立大学法人奈良 県立医科大学の決算について (財務企画課)

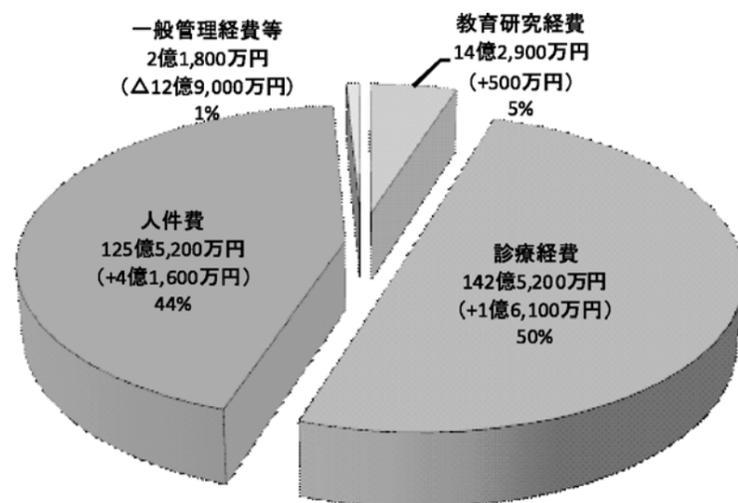
平成20年度決算は、収益 274億3,864万円、費用 284億5,131万円で、**差引 10億1,267万円の赤字決算**となり、平成19年度分とあわせ、累積赤字は14億9,346万円となっています。

収益 274億3,864万円

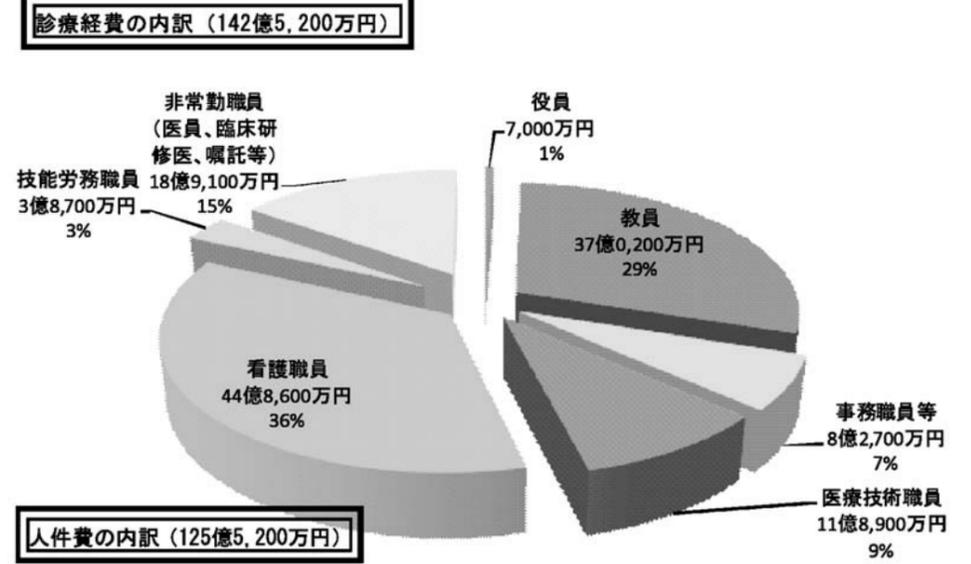
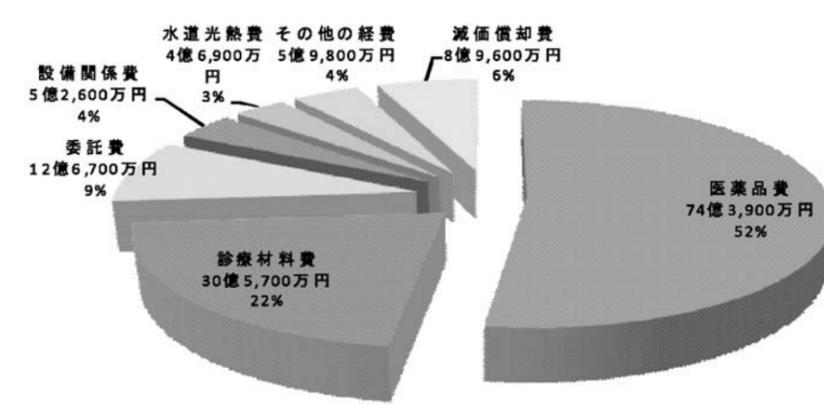
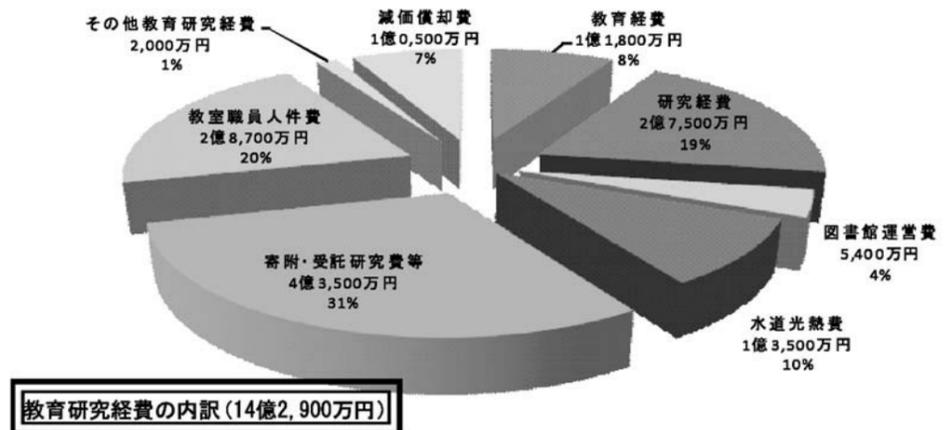


※ () 内は前年との増減額

費用 284億5,131万円



内訳は右ページのとおり



運営費交付金が他学と比べ少ないこと、看護師不足による稼働病床の減などにより、平成20年度は厳しい経営状況でしたが、平成21年度からはマンパワーの確保により稼働病床数が増となるなど、反転の兆しが見えるようになってきました。
より一層の経営改善を図るため、皆さんには引き続き、それぞれの分野でのご協力をよろしくお願いいたします。

研究紹介「眼血流を測定し、視機能評価を行う」

准教授 松浦豊明、 助教 岡本全弘、 教授 原嘉昭

はじめに:眼底は人体で唯一、観血的な手段をとらず動脈と静脈を観察することができます。そのため糖尿病、動脈硬化、高血圧性の変化を知ることができます。(図1)さらに、画像情報だけでなく、血流という動的な情報を得ることができれば、後で具体例に述べますように非常に有益です。そこで我々は現在市販されている大型の固定式市販器具(認証番号 220AGBZX00001000)の光学系をそのまま用い、演算回路を分離、高速化することで体積を4分の1におさえ、より早く、簡便に測定を可能としたものを開発しました。光学系が変わっていないので人体への安全性、装置の安定性は確保されています。しかし医療器具としては未承認であるので奈良県立医科大学、医の倫理委員会に申請し許可を得ました。改良は開発者である九州工業大学教授藤居仁先生のグループに依頼しました。

装置の概要:これまで、眼血流量を経時的に測る機械が少なく、再現性、簡便性に欠けていましたが(図2)、今回開発した機械はその欠点を補うものです。(図3)これをレーザースペckルフローグラフィー 奈良(LSFG-NAVI NARA)と名づけました。LSFG-NAVI NARAは眼底血流をリアルタイムに観察できる眼撮影装置で、機能としては血流マップを一度に観察できる領域が広く、黄斑部と視神経乳頭にかけて観察することができます。また測定時間が1測定あたり5秒程度と短いこと、また原則として散瞳剤や点眼麻酔剤を必要としないので患者への負担が少なく、感受性の悪い患者でも測定が可能です。

測定の実際:図4は視神経乳頭周辺の測定画像です。暖色系の色が血流の早いことを示し、寒色系は血流の色は遅いことを示します。さらに、解析したい血管部位にマーキングします。任意の矩形、円の範囲で測定できるのが特色です。血流の解析結果は1心拍ごとに行うことができ、その平均値を速やかに知ることができます。

今後の応用予定:

緑内障患者において、点眼治療開始後の眼循環血流量の改善が神経保護に関与すると言われていますが、実際には示されていないので、それらを解明します。

加齢黄斑変性の治療として光線力学療法や抗血管内皮細胞増殖因子(anti-VEGF)により脈絡膜新生血管を消退させることが行われていますが、局所的な網膜血流を知ることによってその治療効果、再発の予知、副作用について知ることができます。

さらに眼科領域だけでなく

睡眠時無呼吸症候群において視機能の低下がみられていますが、その原因として、夜間での眼循環血流量の低下が考えられます、そのことを明らかにしたいと思います。

心臓血管手術後の神経合併症の一つとして、視機能障害の発生は稀ではありますが、解決すべき重大な合併症です。心臓手術後の視機能障害の発生率は、0.06 ~ 25.6% と報告されていますが、症候性眼障害に関する後ろ向き研究や簡易法を用いた前向き研究に限られます。今回、我々は眼科検査を術前後に行い、心臓大血管手術後に発生した視機能異常の発生率を前向きに検討したいと思えます。

未熟網膜症でのレーザー治療による眼血流変化の検討など今後さらにその応用が増えていくと考えています。

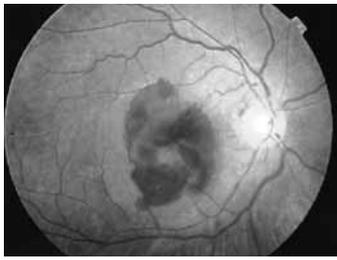


図1：右眼底写真：脈絡膜新生血管からの黄斑出血が見られる。



図2：以前に市販されている器具、大きくまた、いすに座りあご台に顔を固定する必要がある。



図3：LSFG-NAVI NARAの実際の測定の様子

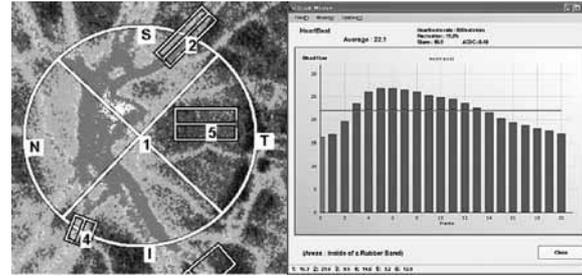


図4：視神経乳頭周辺の測定画像、右図は心拍に血流量をシンクロさせた図。

第63回解剖慰霊祭の開催

平成21年9月17日(木)午後3時から大講堂において、第63回解剖慰霊祭が執り行われました。系統解剖及び病理解剖に貴重なご遺体を提供いただいた方のご遺族、献体登録を申し出ている方々、奈良医大白菊会会員、来賓、教職員、学生等約400名が参列されました。

今年は新たに、系統解剖25柱、病理解剖31柱の計56柱の御霊を加えて、5,843柱をお祀りさせていただきました。参列者全員の黙禱の後、学長の祭文奉読、在学学生を代表して3年生総代の西谷健太さんからの感謝文奉読、参列者の献花と続き、最後に学長からのお礼の挨拶により終了しました。

医師、看護師を志す者にとって人間の体の仕組みを知ることは避けて通れない道です。尊い意思を持ち、医学の発展・医学教育に自らの体を捧げてくださった皆様方に深い感謝を示すとともに、あらためてご冥福をお祈りいたします。



公開講座「くらしと医学」を開催しました（総務課）

今年度前期の公開講座を、9月12日(土)に橿原文化会館大ホールにて開催しました。

平成6年度から始まったこの講座も、今回で23回目となり、今回の会場である橿原文化会館での開催も8回目となりました。

当日は、あいにくの雨模様ではありましたが、約350名と多くの聴講者を得て次のとおり進められました。

吉岡章学長あいさつ
講演

豊田剛医学科哲学教授「欲しいのに子どもができないという悩み」(座長:澤浦博医学科英語教授)
高木都第二生理学教授「排便のはなし - 排便障害はなぜおこるか?」(座長:國安弘基分子病理学教授)
桐田忠昭口腔外科学教授「口腔がんにならないために」(座長:長谷川正俊放射線腫瘍医学教授)

聴講者はメモを取るなど、熱心に聞いていました。また、日常生活の中での悩みなど、多くの質問もありましたが、演者の適切な回答に納得していました。

公開講座は、本学の地域貢献の一環として、「くらしと医学」をテーマに、広く県民に、医学・看護学の知識を解りやすく解説し、日々の暮らしに役立てていただくことを目的としています。後期は、来る2月27日(土)13時より、奈良県文化会館(奈良市)で、生物学大西教授、薬理学吉栖教授、神経内科学上野教授が講演を行う予定です。



吉岡学長挨拶



豊田教授



高木教授



桐田教授

いざ発進！医大DMAT ～奈良県防災総合訓練へ参加～

8月30日(日)に県立耳成高校跡地(橿原市)で「平成21年度奈良県防災総合訓練」が実施され、当院のDMAT(脚注参照)も参加しました。

「大地震により脱線した電車内に取り残された被災者の救助および治療を行い、医療機関に緊急搬送する」というシナリオです。気温30℃を越す炎天下、県内および近隣府県の医療関係者や看護学生、ボランティアらとともに汗まみれになりながら、救命活動を行いました。

万が一の場合には、今回の訓練の経験と反省を活かし、被災者の救命活動に少しでも貢献できるよう頑張ります。

DMAT(=Disaster Medical Assistance Team 災害派遣医療チーム)

医師、看護師、事務職員らの計5名程度で構成し、大震災および航空機・列車事故といった災害時に迅速に被災地へ駆けつけ、救命治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チーム



緊迫した訓練



医大DMATのメンバー

病棟紹介 ～活躍する看護師たち～

A棟7階北



7月5日(日)病棟内の改装が終了し、患者さんの移動も無事完了しました。

そして、眼科33床、皮膚科・形成外科14床、合計47床のA棟7階北病棟が新たなスタートを切りました。

看護師27名・看護助手2名・クラーク1名で、看護師は若手を中心ですが、数名の超ベテランもいます。とても明るい雰囲気です。毎日生き生きと働いています。

眼科・皮膚科は一日に多くの患者さんが入院され、短期間で退院されるという忙しさがある一方で、終末期の患者さんもおられます。高齢化により患者さんの年齢層も高めです。

良い環境に恵まれ、皆、笑顔で温かく思いやりのある接遇を行い、ベッドサイドケアの安全を重視しながら、安心して任せいただける看護の提供に努力しています。また、患者さんが一日も早く復帰できるよう積極的な退院支援に取り組んでいます。スタッフ全員が日々丸となって頑張っています。

病棟紹介 ~活躍する看護師たち~

B棟8階



B棟8階病棟は4～5月に8人の新規採用者を迎えてスタートしました。7月5日の眼科移転に備えて3ヶ月間は落ち着かないバタバタとした毎日が過ぎていきました。

現在は、耳鼻咽喉科35床、呼吸器・血液内科15床、総合診療科10床、合計60床の混合病棟です。B棟3階の血液移植病棟へのスタッフの派遣もあり正直時々「ムリ！」と思うこともあります。しかし、移転のために主要7名のスタッフが抜けた後を、異動してきたスタッフや残留スタッフが、師長の「やってみましょう！」精神のもと主任を中心に「やってみるか！」と乗り切っています。

病棟は耳鼻咽喉科、血液内科、総合診療科と特徴が違い、外科系・内科系・急性期・慢性期・終末期と幅広い看護力や知識が必要です。

病院看護部の理念の下、真に質の高いケアを提供し、我が病棟の精神「和顔愛語わけんあいご」をモットーに暖かい看護で大切な患者さんに寄り添えるよう心がけています。

C棟8階



C棟8階病棟は、7月より呼吸器・血液内科45床、感染制御内科5床、感染症センター9床、合計59床の混合病棟となりました。

感染制御内科の5床には、主に非感染性疾患の患者が入院されます。感染症センターには、新型インフルエンザなどの飛沫・空気感染症、1類感染症などを中心に受け入れ、感染対策の必要性の有無によって病室を使い分けることができるようになりました。

呼吸器・血液内科では、血液内科がB棟8階に15床増床したため、主に呼吸器疾患患者の検査・治療入院を受けています。

看護師は、フレッシュな新人5名を加え、各科外来3名を含めて総勢30名。優しく、明るく元気なスタッフが揃っています。

予後不良の患者さんが多く、長期の入院生活をサポートし、それぞれの患者さんに合った良い看護が提供できるように、医師、薬剤師、看護師が互いに協力し合い、また、緩和ケアや呼吸療法などの学習も深めながら日々頑張っています。

最上階であるデイルームからは、大和三山の一つである畝傍山を望むことができ、晴れた夜には白檀町の夜景が、春には満開の桜が、夏には美しい花火が見られ、患者さんの心を癒しています。

C棟6階



C棟6階病棟は、7月5日より心臓血管外科・呼吸器外科、放射線科の2科に再編成されました。

入院される患者さんの疾患は様々で、手術を受ける患者さんやIVRなどの最先端治療、化学療法、放射線療法などの内科的治療を受ける患者さんまで、急性期から慢性期、終末期と幅広く入院されています。

看護師27名（新人4名含む）がチームワークの良さを生かした看護を実践しています。

患者さんがほっとできるように笑顔で接し、安心して入院生活が送れるように、スタッフ一同スペシャリストを目指して日々頑張っています。



9月18日(金)、「実験動物慰霊祭」を行いました。
これは、実験動物の尊い生命に対し、哀悼の意を捧げるため毎年行っているものです。

学長の祭文朗読のあと、多くの関係教職員及び学生が献花をしました。

私たち生命医学に携わる者は、動物の生命を大切にしなければなりません。しかし、医学の進歩のため動物実験が必要と判断したときには、その犠牲に対して敬意を払い、動物に無用なストレスや苦痛を与えないよう細心の配慮に努めるとともに、研究成果として広く社会に認知されるよう努めていかなければなりません。

高木教授、住居医学研究奨励金による研究で学会会長賞を受賞

~ 日本臨床環境医学会学術集会 ~

(研究推進課)



7月3日~4日、岡山市において第18回日本臨床環境医学会学術集会が開催され、本学からは生理学第二講座 高木 都教授が研究報告を行い、最も優れた研究成果報告として、同学会の会長賞を受賞しました。

受賞した報告は、「シックハウス症候群関連化学物質の循環器系と心筋活動への影響」と題するもので、これは、寄附講座「住居医学講座」の研究奨励金による研究成果を取りまとめたものです。なお、同講座の研究奨励金による受賞は初めてのことで。

共同研究者

高木 都・竹下大輔・服部宇孜・中島千香子・三澤裕美・張 国興・柴田宗孝・松吉ひろ子
(以上、奈良県立医科大学医学部生理学第二)

清水壽一郎(広島国際大学保健医療学部)

中島民治・菊田彰夫(以上、産業医科大学第一解剖学)

(注)平成21年度の「学会等における論文賞等の受賞の状況」については、来年4月号に掲載する予定です。



学内LANから利用できます

~ 「大学等向け特許・文献統合データベース(JSTPatM)」のお知らせ ~

JST【(独)科学技術振興機構】が無償で提供している「大学等向け特許・文献統合データベース(JSTPatM ジェイエスティパットマルチ)」の検索サービスを学内LANから利用できるようになりました。

無償のため一定の利用制限がありますが、産学官連携に関するだけでなく、研究活動のための文献検索等にもご利用ください。

ご利用の詳細は、ログイン画面 JSTPatM利用マニュアルをご覧ください。

- ・ログインURL <http://ninsho.jst.go.jp/loginPatM.html>
(「学内ホームページ」「研究推進課」「産学連携に関して」にリンク設定)
- ・利用可能時間 平日9:00~17:00 ・接続 学内LANからのみ可能

* JSTPatMはJSTファイルと特許(Patent)情報との統合(Multi)検索を意味しています。

住居医学研究会の開催について

回数	第32回	講師	川崎医科大学 衛生学 教授 大槻 剛巳 先生
日時	平成21年11月20日(金)16:00~17:30		
演題	アスベストの免疫影響	会場	基礎医学学校舎5階会議室

医大チーム V3 達成!! - 奈良県職員組合バレーボール大会 -

7月7日、職員組合バレーボール大会が県立橿原体育館で行われました。例年通り医大チームは、中央内視鏡・超音波部森家さん、中央材料室四方さんのマネージメントで集結した院内多職種のコラボチームで参加しました。今年は、若手とベテランの力ががみ合い、また多くの若手看護師さんの参加でチームの雰囲気も盛り上がりました。

試合は、球をよく拾い、多彩な攻撃で得点を重ね、一回戦から危なげなくトーナメントを勝ち進みました。決勝戦は、チーム力がある三室病院との対戦で、一進一退の厳しいものとなりましたが、全員バレーで逃げ切り、大会三連覇を果たすことができました。応援や協力をいただいた職員の皆様に感謝いたします。



吉岡学長へ優勝報告



笑顔がすばらしい優勝メンバー

Report

承認された規程、委員会名簿等については、随時、ホームページにて公開しています。
学内ホームページURL（閲覧は学内のみ可能）
top.naramed-u.ac.jp/
「規程・名簿タブ」
は、公開ホームページに掲載
www.naramed-u.ac.jp/aff/johokoukai/

（総務課）

役員会及び教育研究審議会の報告

第13回 役員会（7月22日）

- 職員（事務、薬剤師、放射線技師及び臨床検査技師）採用試験の実施を決定
- 平成21年度文科省「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」について、不採択であった旨報告
- 文部科学省から7月17日付けで「地域の医師確保等の観点からの医学部入学定員の増加について」の通知があった旨報告
- 大規模コホート研究のための検討委員会の立ち上げについて、委員の選任方針を了解

第14回 役員会（7月28日）

- （仮称）大規模コホート研究課題検討委員会委員を選任、検討を開始することを承認
- 全職員に対する決算状況の説明会を8月4日、5日に開催する旨報告
- 6月末現在の財務状況を報告
- 平成21年度文科省「教育研究高度化のための支援体制整備事業プログラム」について、不採択であった旨報告
- 看護職員採用試験の合格者を決定

第15回 役員会（8月5日）

- 平成21年度文科省「周産期医療環境整備事業（人材養成環境整備）プログラム」について、不採択であった旨報告
- 医学部看護学科第3年次編入学試験の出願状況を報告

第16回 役員会（8月19日）

- 生物学及び眼科学の教授選考を開始し、次回教育研究審議会で協議
- 教員の国内留学を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 大学院の充実について承認し、次回教育研究審議会で審議
- 平成22年4月採用看護師の応募状況を報告
- 臨床工学技士採用試験の実施を決定
- 利益相反管理委員会委員及び相談室室員の任命・委嘱状況を報告
- 医学部の入学定員増にかかる検討状況を報告
- 平成21年度文科省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」の選定結果について、不採択であった旨報告

第17回 役員会（8月26日）

- 教員の人事について承認し、次回教育研究審議会で審議
- 教員の海外留学を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 医学科定員増に伴う学則改正（案）について、改正を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 附属図書館利用規程の一部改正（案）について、改正を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 7月末現在の財務状況を報告
- 「地域産学官共同研究拠点整備事業」について報告
- 研究シーズ集の作成について報告
- 「平成21年度地域イノベーション創出研究開発事業」について報告
- 平成21年度住居医学講座「病室環境研究」の交付決定を報告

第18回 役員会（9月2日）

- 10月1日付け教員の人事について承認し、次回教育研究審議会で審議
- 会の倫理委員会委員の交代について承認し、次回教育研究審議会で審議
- 平成20年度業務の実績に関する評価結果を報告
- 平成21年度年度計画の進捗状況を審議、次回教育研究審議会で審議

- 5 新型インフルエンザの対応状況（医学部長名、病院長名、各通知）を報告
- 6 平成22年4月1日付け看護師試験の合格者を決定

第7回 教育研究審議会（9月3日）

- 1 生物学、眼科学における教授選考のスケジュールを承認
- 2 教員人事について、10月1日付けで、准教授への昇任1名、講師への昇任2名、学内講師への昇任2名及び助教1名の採用、平成22年4月1日付け准教授1名の採用を承認
- 3 寄附講座（血栓制御医学）人事について、10月1日付け講師1名の採用を承認
- 4 教員の海外留学について、法医学・粕田助教の留学を承認
- 5 教員の国内留学について、救急医学・關助教の留学を承認
- 6 定員増に伴う学則改正について、平成22年度から10年間、入学定員を5名増とすることを承認
- 7 附属図書館利用規程の一部改正を承認、9月14日施行
- 8 大学院の充実について、より多くの大学院生を確保するため、「本学修士課程から博士課程へ進学する者への優遇措置として入学金の免除」、及び、「奈良県立医科大学日本学生支援機構奨学金授与者業績優秀者返還免除候補者の選考等にかかわる要項の制定」を承認
- 9 医の倫理委員会委員の交代を承認
- 10 平成20年度年度計画の評価結果を報告
- 11 6月末現在の平成21年度年度計画の進捗状況を確認
- 12 利益相反管理委員会委員及び相談室室員の任命・委嘱状況を報告
- 13 「地域産学官共同研究拠点整備事業」について、奈良工業会、奈良工業高等専門学校及び奈良県が、科学技術振興機構（JST）に提案した旨、本学は協力機関となっている旨報告
- 14 研究シーズ集の作成にあたり、様式を定めた旨報告
- 15 経済産業省の事業である「平成21年度地域イノベーション創出研究開発事業」が採択された旨、本学はアドバイザーとしての参画となっている旨報告
- 16 平成21年度住居医学講座「病室環境研究」の交付決定を報告
- 17 （仮称）大規模コホート研究課題検討委員会委員の選考を報告

第19回 役員会（9月9日）

- 1 教育開発センターの教授選考について、生物学、眼科学の教授選考に続き、選考を開始することを決定
- 2 任期付き職員採用試験の合格者を決定、事務4名、臨床検査技師1名を10月1日付けで採用

第8回 教育研究審議会（9月15日）

- 1 教授選考に係る教員からの意見聴取について、生物学及び眼科学の教授選考に係る基本方針の策定にあたり、各教員より意見聴取

第20回 役員会（9月24日）

- 1 緩和ケアセンターの設置に伴う附属病院規程の一部改正を承認、10月1日施行
- 2 平成21年度厚労省「がん専門医臨床研修モデル事業プログラム」に採択された旨報告、併せて実施計画を承認
- 3 平成21年度職員採用試験への応募状況を報告
- 4 医学科同窓会へ厳格学術奨励賞（海外留学助成金）候補者を推薦した旨報告

第21回 役員会（9月30日）

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
(1) 発明届について
(2) 講座研究費・教員研究費の下半期の配当について
- 2 教育開発センターにおける教授選考のスケジュールを承認
- 3 看護職員採用試験の合格者を決定
- 4 会計監査人の選考結果を報告（新日本有限責任監査法人）

世界へ躍進！ ～国際交流センターを設置～

国際交流センター(研究推進課内・内線2552)

本学の国際交流を進めるため、平成21年4月1日、国際交流センター(センター長:喜多医学部長)を設立しました。

センターの主な業務は、次のとおりで、その運営については、新たに設置した国際交流センター運営委員会において審議します。

- 1)国際交流の推進に関する企画・立案及び実施に関すること
- 2)外国の大学や研究機関等との交流協定の締結その他交流の支援に関すること
- 3)本学の教職員、学生の留学、派遣に関すること
- 4)外国からの研究者、留学生、及び医療技術者等の受入に関すること
- 5)前各号に掲げるものの他、センターの目的を達成するために必要な業務に関すること

国際交流の推進は、本学の中期計画にも掲げられている重要な取り組みです。

センターは、そのための拠点として位置付けられています。成果を出せるよう、大学が一丸となって邁進したいものです。

なお、センターの庶務は研究推進課が担当しますが、それぞれの事業は次の各課を主担当として、関係する所属が連携して推進します。

総務課 → 職員の留学・研修等 学務課 → 学生 研究推進課 → 研究者その他

国際交流センター関係規程等(学内専用)

<http://top.naramed-u.ac.jp/jimu/soumuka/01kitei/index.htm##42>

下ツ道

(編集後記)

先日、報道番組で北極海の氷が融け出している映像を見ました。レポーターが「温暖化により氷が融けて海面が上昇している！」と解説していました。海水の上に浮かんでいる氷が融けて海水面が上昇するのでしょうか？(体積は変わらないのに?) 科学教育は敗北したなと感じました。このような悲劇的な解説に科学は立ち向かわなければなりません。

掲載希望の記事等については、各編集委員までお知らせください。

今村 知明(健康政策医学)
大西 健(生物学)
粕田 承吾(法医学)
植村 正人(内科学第三)
中島小乃美(成人看護学)
橋口 智子(看護部)
福留 隆二(研究推進課)
鷹本 純史(学務課)
西村 和也(病院管理課)
鷹野 覚(総務課)
(印は編集委員長)